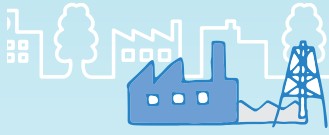


建築設備配管用鋼管

工場探訪



シリーズ第4弾の工場探訪は、佐賀県多久市にある株式会社多久製作所さんの九州工場におじゃましました。九州工場では、WSP規格の小径管製品のうち、フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管（WSP 011）、フランジ付ポリエチレン粉体ライニング鋼管（WSP 039）、ナイロンコーティング鋼管（WSP 067）の3管種を製造しています。

今回は、耐食性、耐候性に優れ、幅広い用途で使われるナイロンコーティング鋼管の製造工程を見学します。

（株）多久製作所九州工場（佐賀県多久市）



ナイロンコーティング鋼管が製造される工場棟

各種ナイロンコーティング鋼管



製造フロー



1. 原管

原管（配管用炭素鋼鋼管〈JIS G3452〉）は、口径別にストックされて、加工を待ちます。



2. 内外面ブラスト

原管内外面についてサンドブラストにより汚れを除去・洗浄し、表面を凸凹に粗くします。



内部を閉め切り、密閉空間で作業します。



ブラスト後のフランジ鋼管

